

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4391500149 | | |
| 法人名 | 株式会社 鎌田電設 | | |
| 事業所名 | グループホーム さざなみ | | |
| 所在地 | 熊本県天草市有明町赤崎1974番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年9月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年10月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から12年が経ち地域との繋がりを大切に、家庭的な感じが魅力の一つ。広々とした敷地には畑で野菜を収穫したり、桜が満開になると天候次第だが花見を行っている。室内から環境を通じて季節を感じる場所でもあります。さざなみの理念である「ゆっくり・じっくり・しっかり」の自覚を職員1人ひとりが持ち、人生の先輩である利用者様のケアを行い、ご家族様が目に見えない様子などは毎月家族へ広報誌を発送しています。職員、ご利用者様と一緒に地域行事など参加し寄り添い交流を深めています。運営推進会議でも色んな意見やアドバイスも頂いています。今後も意見を頂きながら精進していきたいと思っています。職員含めチームとしてケアを考え行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るくゆったりとしたスペースのリビングで寛ぐ入居者の様子から、本人のペースに沿った暮らしの支援が行われていることを伺うことができる。
食事は、ホームの菜園で採れた野菜や、地元の魚など、新鮮な食材を使い、職員が献立をたてて調理した家庭的な食事が提供されている。
コロナ禍で家族や地域の人々との交流が制限されていることもあり、毎週、日曜日は、自宅周辺や馴染みの場所、季節の花見などヘドドライブに出かけ、気分転換の支援を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念の言葉を理解し現場でもスタッフ1人ひとり認識し、理念の言葉のように努力している。まずは職員が理念を言えるようになる事が初めの一歩と感じている。 | 理念を「ゆっくり・じっくり・しっかりと」定めている。職員の定着率が高く、理念は知っていても日々のケアの拠り所としての意識は十分ではないように見られた。 | 理念に込められた想いについて、職員が話し合う機会を多く持ち、理念に沿ったケアについて学びあうことが大切と思われた。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 敬老会やグランドゴルフ大会、地元へ(故郷)ドライブなど行い、地域の方から声をかけられ寄り添い世間話や昔話をしたり交流している。今後も重点的に行う。 | 開設から12年を経て、地域での認知度も高まっているが、コロナ禍の為、地域との日常的な交流は出来ていない。職員は社協が開催する「物忘れ相談室」や、認知症の在宅介護者対象の講座などで講師として話をするなど、職員の専門性を活かしての地域貢献も行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在、コロナウイルスの制限などあるが、本来ならば気軽にいつでも遊びに来てもらえるように呼びかけなど行う予定。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月ごとの運営推進会議に参加して頂き、色んな意見などを聞きケアへ繋げている。構成員の方から質問などありコミュニケーションがとれている。 | 運営推進会議は定期的開催され、活動状況や行事予定等が報告されている。また、地域の情報交換等も行われている。 | 運営推進会議は、事前に話し合うテーマを決めて、委員に伝えておくことで、意見交換等が更に充実すると思われる。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加して頂き、直接お話しや意見を交わして助言等の指導をして頂いている。何でも話せる場でもある。 | 介護保険制度の改正や、コロナ関連情報等は、市の担当課から日々メールで送られてくる。台風などの災害時は、地域の避難場所として2人までの受け入れを登録し、市への協力と連携に取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全ての職員には、職員会議にて実例などの例を参考に2か月に1回のペースで拘束の勉強はしている。絶対したらいけない！と強く伝えている。 現在、身体拘束はない。 | 管理者が身体拘束に関する資料を用意し、職員会議の時間に研修を行っている。しかし、研修記録は残されていない。研修後、職員の理解を確認する取り組みも期待したい。 | ホームが作成した「身体拘束廃止マニュアル」の理解や、介護現場で起こりうる身体拘束等について、職員の理解を深めるための研修が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に努めている。研修や講義などあれば参加してもらう。身体拘束同様、強く伝えている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議で勉強は行っている。今後も再確認を行い、より深く濃い勉強会をしていく計画である。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約までには、必ず十分な説明を行う。確認をしながら、ご理解や納得を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 来訪時、電話等で、ご要望をお聞きして改善するように心がけている。分からない時はいつでも連絡下さいと必ず伝えている。 | 家族の面会は、玄関先で時間を制限して実施している。入居者の写真と、ホームの活動状況などを掲載した「さざなみ」を毎月発行し、家族へ送付している。また、毎月電話で状況報告を行い、要望や意見等を聞くように心がけている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 申し送り、会議、個別に意見を聞き良い意見は取り入れ改善方向へ繋げる。まずは傾聴を行い、何でも話せる状態にする。 | グループラインを設定し、入居者の気になることや職員の気づきなどは、速やかに職員間で共有している。毎月職員会議を開催し、入居者の状況についての話し合いや、管理者が中心となって、介護についての職員研修を実施している。 | 職員会議や研修についての記録の充実を期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員1人ひとりが、何でも自由に言える環境であり、働きやすいと言えるような工夫も今後必要だと感じる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 現在はコロナウイルスの為、制限があるが外部の通知などは、出来る限り早めに対応を行っている。希望者が参加出来るようにこれから行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外へ出て交流の場は必要と感じている。積極的ではないが、希望者がいれば参加するように行う。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人様、ご家族様の心配事や困り事を普段から傾聴して安心出来る信頼性を作り何でも話せるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご本人様、ご家族様の要望を聞き納得がもらえるようなサービスを行っていくようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設を理解して頂き、ご本人様、ご家族様にサービスを理解してもらう。納得するまで聞いて頂く。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人様を人生の先輩として尊重し、利用者本位で良い雰囲気作りを行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様への依頼時には、連絡をすぐに行う。一緒に過ごす時間を作っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 電話の希望があれば対応を行っている。毎週日曜日は故郷周辺をドライブなどを行っており、今後も引き続き継続していく。 | コロナ禍のため、家族や外部の人々との交流は殆どできないが、入居者の実家周辺や、案山子村、小学校跡地の道の駅等、昔なじみの地にドライブに出かけるなどして、思い出が途切れないように支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 特に食事中が孤立の傾向がある。孤立がないように職員が参加して寄り添う。食事のペースが早い為、会話を取り入れ行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所したら、これで終わりではなく、これからも引き続きお話ししたり訪問など行っていきたい。ホームの方と一緒に行ければと感じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 自室や間食時など、1人でおられる時に会話の中から、全てではないが、希望や意向をお聞きして把握している。表情や姿から何気ない会話からお聞きする。 | 入居者の現役時代の仕事について問いかけ、会話の糸口を見つけ、思いや意向の把握に努めている。ラジカセが壊れた時、洋服が古くなった時、修理するのか、購入するのかなど、本人に選択してもらい、意志の尊重を心がけて支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今までの交友関係の方々や医師等に情報収集して把握している。ご家族へ生活歴をお聞きすることもある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日、朝食後、昼食後はバイタルチェックを行っている。入浴される方の血圧が高ければ中止するなど1人ひとり状態を把握し、その日の勤務者同士で伝達行い夜勤者にも申し送りを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様、ご家族様、医師、担当職員と話し合い、ご本人様に添うような計画を立てている。 | 本人のペースを大切に、家庭での暮らしに近い生活となるような介護計画を立てることとしている。ケアプランは、申し送りノートと一緒に全スタッフへ回覧している。 | 一人ひとりのケアプランについて、職員が十分理解し、プランに沿ったケアの提供となるよう、更なる取組を期待したい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 体調の変化時には、ご本人様、ご家族様、医師と相談をして検討を行っている。介護計画の変更も行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人様の思いを大切に利用者本意で人生の先輩として尊重し、良い関係を作っていく。また、体調変化時は、サービスを変更して希望などを取り入れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 現在は、行事が出来ない状態ではあるが、地域のお祭りに参加させて頂いたり、ホームでの行事などを参加されるように今後も出来る事を呼びかけていく予定。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人様、ご家族様の要望を聞き、医師とともに直接お話しを行い適切な援助が出来るようにしている。 | 定期的な受診同行は、家族が主となって行っている。協力医による訪問診察等は行われておらず、緊急時は、救急車による搬送となっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の状態の報告、お電話や手紙を渡したり状況報告している。分からないことや気になる事などもお聞きしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者様が、入院治療が必要な場合、ご家族様、主治医との話し合いにより対応に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 日々の変化から、早い段階とは言えないが、ご家族様と色んなお話をし重度化した場合などを視野にいれてお話をしている。主治医にご指導いただき対応に努める。 | 重度化や終末期に向けた方針の明文化は見られない。入居契約時に、日常的に医療的支援が必要となった際は、主治医と相談の上、より適切な支援が受けられるように、入院や施設への入居等を支援することとしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故の場合、対応出来る人出来ない人がいるため、会議などで再確認を行っている。常に職員へ情報を発信する。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は年度内に2回実地。地域の方も参加されて放水訓練を行っている。地域の方には協力を得ている。 | 年に2回の火災訓練と1回の津波避難訓練を実施している。訓練時は、運営推進会議委員で元消防署員であった人や、地域の人々の協力を得て入居者も参加して実施している。 | 火災訓練は、職員が一人となる夜間を想定しての避難訓練も実施することが必要と思われた。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員の言葉使いは何度も会議などで話したが、直りません。言葉を知らないのかも知りません。プライバシー確保も注意を促している。 | 排泄支援・入浴介助等の際は、ドアやカーテンを使用してプライバシーへ配慮するよう指導している。管理者は、職員の声の大きさや、入居者とのコミュニケーションに課題があるとしている。 | 人権やプライバシー、認知症の方とのコミュニケーション等について、研修を行い、職員の理解を高めるための取組を望みたい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | お一人おひとりに、分かりやすくゆっくり言葉かけを行っている。希望や自己決定が出来るようにしているが職員のペースに合わせる事が見られる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペースで無理は無いようにしている。常に見守り重視を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2か月に1度ホームへ地域の床屋さんが髪を切りに来られる。数名自宅で髪を切られる利用者様もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご希望や、食べる量、トロミをつけるなど職員同士が工夫する。食事の準備や片付けなど行ってきましたが、現在は職員が行っている。 | ホームの畑で採れた野菜や、地元の魚など、新鮮な食材を使って、職員手作りの家庭的な食事が提供されている。秋は、干し柿づくりを楽しんでいる。誕生会にはケーキを、また、ひな祭りや七夕、敬老会、クリスマス等には、行事食を出して、楽しい食事の支援を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 申し送りや職員会議など常に行っている。出来るだけ水分は多めに摂取してもらうようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 1人で出来る方は、声かけや、見守りを行う。困難な場合は職員と一緒にやっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自分で出来る方は、自力で行っている。困難な場合は職員が見守りやトイレ誘導を行う。 | 日中は、一人を除いて全員トイレでの排泄を支援している。夜間は、モニターやセンサーマットを使用したり、2時間おきに訪室して様子を見守り、状況に応じた排泄支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 定期的に水分補給を行い脱水にならないように心がけている。体調に合わせて、ヨーグルトなどを活用する。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 2日に1度の入浴を行っている。入浴の意思表示があった場合の対応など職員が試行錯誤で行っている。 | 入浴は、一日おきを基本としているが、入居者の様子を大切に無理のないような支援を行っている。洗髪が嫌いな入居者のために水のいらぬシャンプーを使うなど、工夫している。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を感じてもらったり、温泉センターで足湯を楽しめるような支援も行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 朝食後、ソファで寝ておられる場合、休みたいときには休んで頂いている。食事、間食、トイレの声かけは無理に起こさないようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬防止の為、声を出して日付と名前を呼んで確認してから服薬介助を行っている。服薬介助後チェックシートへ職員の名前を記入している。ダブルチェックも行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとり出来る事を活かし、ちぎり絵や塗り絵を行っている。テーブルクロスも干すようにしている。1日が有意義に過ごして頂けるようにしている。今後、色んな事を取り入れて行うように努力する。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎週日曜日、散歩、ドライブなど職員が積極的にいき、時間がある限り、ご本人様の希望をお聞きして行っている。ご家族様へ電話や広報誌で行ったことを載せている。 | コロナ禍のため、家族との面会も容易ではなく、気分転換を図るため、毎週、日曜日は出来るだけドライブに出かけるように取り組んでいる。桜や菖蒲、紫陽花、紅葉等、季節の花見や、実家周辺等へ出かけている。外出時は、写真をとり、広報誌に載せて、家族への報告も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は、病院代、身の回り、日用品など必要な物は職員が代理で購入している。職員が声かけを行い必要な物は聞くようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在は、お電話のみ行っている。家族様から、お誕生日に電話がかかってくる気軽に電話してもらっている。利用者様は、声を聞けば安心される。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔保持の為、毎朝、フロア、居室、トイレを清掃を行っている。食事が終わればテーブルを消毒し床を拭く。1日2回をメドに空気の入れかえを行っている。季節に応じて、ちぎり絵やカレンダーなど壁へ貼り付けている。 | リビングは、天井が高く、ゆったりしたスペースが確保されており、入居者が食事をしている様子や、ソファで寛ぐ姿等を、職員がキッチンや事務室から見守りしやすい作りとなっている。浴室やトイレ、リビングも清掃が行き届き、明るく居心地よく過ごせる共有空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同空間は、ソファ、テーブル、和室、堀こたつなど、食事の席は指定席だが、それ以外は、指定席など決めず自由に座って頂き、水分を摂りながら、お話など出来るようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 普段から使っていたり、使いたれた馴染みの物を持参して頂き使用してもらおう。ご本人様の希望を優先している。 | 居室には、家族の写真や、誕生日の色紙等が飾られているが、全体的に馴染みの物の持ち込みは少ないように見られた。テレビが居室にあっても、日中は、ほとんどの入居者がリビングで共に過ごしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ここがどこか分かるように、居室には札をさげている。特に夜間はトイレの場所が分かるように電気をつけてトイレへ誘導している。 | | |